

第4号

広島工業大学 建築学科同窓会

いつみ
五三會會報

発行

広島市外五日市町三宅

広島工業大学「五三會」

代表 秋本 孝

思いいずるままに

教官 林 公重

卒業生の皆さん元気に活躍しておられることと思います。今年4月から私が、建築学科の教室主任を仰せ付けかり、責任の重さに苦しんでいます。

この度、五三會の会報発刊にあたり、上之幹事より何か書くようにとのお話がありました。私は文章が苦手でおまけに時間がかかるので誰か他の人にと、一度は断りましたが、たつてのお話してシブシブ引受けざるを得なくなりました。引受けたものの、さて何を書くかと考えましたが、特別書くこともありませんので思いいずるままの感想を書くことにしました。到底満足なものは書けませんので意のある所を汲み取って頂ければ幸いです。

私は49年5月、皆さんの母校に奉職して以来約3年、その間、建築測量、土質工学、建築基礎工学などの講義を担当しています。最近やっと建築学科内の諸事情が分かりかけた所で、学内のことは未だ十分飲み込めていません。と言う訳で、今のところ、後1ケ年の主任任期を何とか無事務め終えたいばかりです。

私が就任以来、時に感じることは、本学の学生は比較的オットリとしていて、対教員の際は万事消極的なようです。悪く言えば自信喪失症ではないかとさえ疑いたくなる程で大学生らしく、もう少し澁刺として、ガンガン未知の分野に(対教員の際も)ブチ当たって行く気概があればなあーど、昔は昔、今は今、現在の自分に自信を持って突き進んで欲しいものです。

卒業生の皆さんの学生時代は如何でしたか？私は卒業生の多くの皆さんとは殆んど面識がありませんが、今後五三會或いは職場を通してお目にかかる機会を得たいと思っています。健康で活躍されんことを祈っています。

建築学科は近年かなり充実して来ましたので、卒業生の皆さん、機会を作って来校し利用して下さい。教員一同、卒業生の活躍の現況と併せて現場の生のニュースを聞き、研究の一助にしたいと期待しています。

建築学科の近況を予定を含めてお知らせしましょう。今年もほんとに就職難ですね。12月10日現在、建築学科卒業予定者の就職率は42.6%です。過半数の学生が血眼になって職を捜しています。教員一同、必死で開拓に務めています。仲々意の如くになりません。卒業生の皆さんも後輩のためお力添えをお願いします。

学科内に於ては、今年4月、牛島賢賢、天満祥弥、地井昭夫各先生が助教授に昇任、特に地井助教授は今年4月、母校早稲田大学に於て博士取得。菅原辰幸先生(44年卒)は、来年4月から1ケ年間、九州大学工学部建築学科へ。留学研究の予定。高松隆夫先生が近く就任の予定、先生は米国テキサス農工大学に於て博士取得、構造力学などを担

当予定。岡本貞先生は定年退職、現在、非常勤講師。上之博文先生(50年卒)は、来年3月末退職、LAT環境設計事務所勤務の予定。山本春行先生(51年卒)は、広島大学工学部大学院(建築学専攻)に合格、来年4月入学予定。佐藤洋先生は現在、病氣療養中で来春には元気に出勤されることを期待しています。

(昭和51年12月筆書)

『開発(まちづくり)』

42年度入學

広島県庁都市部都市計画課 徳清・秀夫

国道のバイパスや自動車道の新設、新幹線や飛行場をはじめとして、およそあらゆる種類の公共施設といったものが公害の対象として攻撃を受けている。それらは単に交通施設だけでなく公益的施設にまで及んでいる。幼稚園建設反対(園児やスピーカーによる騒音被害)、老人ホーム建設反対(老人が近くを散歩し歩歩くことは地区の快適さをそこなう。地価が下がる)などである。これら近隣的な問題のものから、さらには、区画整理事業や再開発事業の反対のように本来生活環境を整備することが最大の目的であるような事業まで含めて、行政と住民・起業者と住民・住民と住民などと対立はさまざまである。このように公共性について人々の考え方が変化してしまつて、近隣地区への異質なものの侵入に対する反発による紛争が一般化した姿となっている。都市社会におけるコミュニティーの欠落、モラルの欠如がいたずらな紛争を招いているとも見られる。

これまでの開発(まちづくり)は地域住民の要求を軽視してきたと言われるが、その反動というか権利に目覚めた住民は、一切の高圧的で一方的な開発を拒否し、これを粉砕しようとする力を備えてきたが、他方では明らかにエゴイズムと断定される開発反対も見受けられるようだ。極少数の人々のエゴイズムによって多数利益を奪い取るという現代社会に基本的な問題を投げかけている。無責任なエゴイズムに振り回され、声の大きな者のごきげんをとる社会的不公平は改められなければならないし、公と私のけじめ、私の利益主張と近隣の利益確保との調和を見い出そうとする努力は失ってはならないと考える。

現代の都市は種々の問題をかかえている。問題の原因者は都市自身であり、その負担は最終的には市民の肩にかかってくるという仕組みの認識に立って、開発(まちづくり)は何のために誰のためのものなのかを積極的に一人一人が知る必要がある。又、都市化の進行によって失われた生活の場における人間性の回復と新しい社会のモラルを形成しなければならない。こうしたことに誰もが目覚め、そして都市計画への市民・住民の責任ある参加を通じて、権利意識と同様に強い責任感をもった自律的な市民による開発(まちづくり)がなされるよう努力したいと思うのである。

今春卒業予定者の就職先

先輩の方々、下記の新会員が社会に飛び立ちますので、よろしく願いいたします。

(氏名)	(就職先)	(氏名)	(就職先)
池通 清博	チタコハウジング	浜本 洋	建設工業
石黒 幸治	フジ建設	原田 隆士	同建設
石本 猛	同建設	広重 芳雄	同建設
伊藤 弘幸	同建設	福井 健	同建設
伊藤 光洋	同建設	藤井 敏美	同建設
井上 真士	同建設	藤仲 徹	同建設
岩田 芳美	同建設	藤原 直	同建設
内山 通雄	同建設	船附 敏	同建設
大川 博敏	同建設	堀川 宏	同建設
小川 一郎	同建設	前川 重喜	同建設
奥田 稔	同建設	前田 尤士	同建設
小田 俊樹	同建設	益田 雅義	同建設
金光 栄吉	同建設	松村 孝志	同建設
河相 賢治	同建設	松本 孝志	同建設
川上 昭文	同建設	松谷 安	同建設
川本 博久	同建設	三紙 文夫	同建設
菅野 政博	同建設	児崎 誠	同建設
神堀 祐二	同建設	光平 昌司	同建設
北脇 樹二	同建設	三宅 明	同建設
衣笠 准一	同建設	三好 修平	同建設
倉田 紳	同建設	森垣 寛史	同建設
幸谷 裕之	同建設	八木 常好	同建設
河内 浩志	同建設	山口 莊一郎	同建設
小谷 隆二	同建設	山下 高美	同建設
郷田 俊裕	同建設	山田 智博	同建設
佐々木 培博	同建設	山田 雅文	同建設
佐藤 一隆	同建設	山田 幸弘	同建設
柴寄 幹雄	同建設	山根 敬三	同建設
友本 正典	同建設	山本 真人	同建設
高橋 久登	同建設	吉武 賢	同建設
竹田 謙二	同建設	渡壁 守正	同建設
竹元 茂好	同建設	和田 好正	同建設
立間 一雅	同建設	青木 彰洋	同建設
鉄井 伸一	同建設	在川 大相	同建設
寺川 洋	同建設	伊藤 康文	同建設
中川 雄治	同建設	大島 泰明	同建設
中西 勝	同建設	桂 正	同建設
中野 弘	同建設	白木 俊彦	同建設
長岡 彰	同建設	末田 一	同建設
南雲 康慈	同建設	杉田 博巳	同建設
成瀬 俊雄	同建設	住吉 裕二	同建設
縄田 祐一	同建設	瀬分 洋	同建設
西本 洋三	同建設	田中 正明	同建設
新田 幸治	同建設	富賢 英雄	同建設
野崎 信介	同建設	平 敬二	同建設
野間 隆則	同建設	村岡 琢磨	同建設
波止元 栄	同建設	渡部 亮	同建設
浜田 覚	同建設	佐々木 昌和	同建設

(氏名)	(就職先)	(氏名)	(就職先)
高島 正雄	同建設	藤岡 忠	同建設
西田 二一	同建設	藤原 崇	同建設
青木 誠	同建設	布施田 広	同建設
天野 公三	同建設	古次英三郎	同建設
池田 嘉文	同建設	前田 真	同建設
石川 定克	同建設	榎本 正紀	同建設
一柳 茂弥	同建設	松尾 孝好	同建設
伊藤 光夫	同建設	松岡 義雄	同建設
稲垣 寿計	同建設	松本 順次	同建設
井上 雅司	同建設	松本 泰昌	同建設
岩本 雅三	同建設	松本 泉	同建設
内山 幸恵	同建設	湯 英二	同建設
遠藤 洋	同建設	宮園 雄二	同建設
岡村 文洋	同建設	明賀 讓二	同建設
小野 五二	同建設	三好 俊明	同建設
梶川 勇治	同建設	本山 純一	同建設
角野 秀二	同建設	森本 収	同建設
川岡 定	同建設	柳瀬 元史	同建設
川本 正弘	同建設	山下 賢二	同建設
神原 利晴	同建設	山田 英雄	同建設
木村 元洋	同建設	山田 雅也	同建設
久保 啓二	同建設	山名 一夫	同建設
河内 寛	同建設	山根 利基	同建設
小園 孝志	同建設	山野 行昌	同建設
児玉健太郎	同建設	山本 正則	同建設
佐々木茂則	同建設	吉永 圭壮	同建設
笹野 利之	同建設	若杉 晋策	同建設
佐藤 和弘	同建設	渡辺 真次	同建設
柴原 一矩	同建設	阿慈谷 満	同建設
下川 義則	同建設	池田 敏彦	同建設
背尾 宜徳	同建設	石原 文一	同建設
対東 潔	同建設	遠藤 繁幹	同建設
峠 義隆	同建設	佐藤 典夫	同建設
高橋 邦博	同建設	菅野 博之	同建設
武井 英史	同建設	諏訪 迎和信	同建設
竹本美恵子	同建設	高森 宏之	同建設
田中 秀敏	同建設	武内 和敏	同建設
鶴原 政雄	同建設	中村 省三	同建設
寺内 正志	同建設	原 邦彦	同建設
富永 修次	同建設	古川 正洋	同建設
中川 俊秀	同建設	松岡 昇	同建設
中島 伸哉	同建設	三上 聡誌	同建設
中野 宏晃	同建設	村井 義範	同建設
中村 純一	同建設	岡田 健治	同建設
鍋井 宏	同建設	坂井 博	同建設
縄田 学	同建設	住吉 弘次	同建設
西村 敏雄	同建設	辻岡 豊	同建設
新田 健二	同建設	戸村 進	同建設
二宮 弘	同建設	三谷 健夫	同建設
野田 和宏	同建設	森脇 猛	同建設
服部 守	同建設		
花咲 優	同建設		
浜本 義弘	同建設		
原田 和彦	同建設		
廣畑 一	同建設		
福井 洋児	同建設		

建築学科先生の紹介

建築学科一期生も母校を巣立って、早や4年が過ぎようとしています。先生方の顔ぶれもかなり変わっています。そこで、現在、建築学科で教鞭をとっておられる先生方を紹介いたします。

- 教授 林 公重 広島市尾長町533
土木工学大意、構造工学A、
建築測量Ⅰ、Ⅱ
- 〃 曾根田 彰 佐伯郡五日市町観音台10-306
建築行政、地域計画A、
- 助教授 葛西 重男 広島市已斐上5丁目1335
建築概論
- 〃 山本 堯亮 広島市江波柴町2-20
建築概論
- 〃 吉田 敏雄 佐伯郡廿日市町佐万408-3
構造力学Ⅱ、Ⅰ
- 〃 牛島 賢象 佐伯郡五日市町隅の浜1丁目2-29
建築施工Ⅰ、Ⅱ
- 〃 地井 昭夫 佐伯郡五日市町中地1049-1
地域計画B、造形演習Ⅲ
- 〃 天満 祥弥 広島市山根町233-1
建築材料Ⅰ、Ⅱ
- 講師 橋 節司 広島市舟入中町6-6 舟入中町住宅
建築設計Ⅱ 301号
- 〃 丹羽 博亨 佐伯郡五日市町隅の浜一丁目1-9
建築史A、B
- 〃 佐藤 洋 佐伯郡佐伯町玖島1320
建築環境工学Ⅰ、Ⅱ
- 〃 佐藤 立美 佐伯郡五日市町屋代116-1
構造設計Ⅳ、構造設計Ⅱ、材料力学Ⅱ
- 〃 西川 加柅 広島市已斐西町5-7 佐藤方
建築計画A

- 講師 水田 一征 広島市井口4丁目10-4
建築計画C
- 助手 菅原 辰幸 広島市佐東町八木室屋
建築設計Ⅲ
- 〃 蓼原 真一 佐伯郡大野町福面136-58
建築構造
- 〃 上之 博文 佐伯郡五日市町楽々園1丁目4-32
造形演習Ⅰ、Ⅱ
- 〃 山本 春行 広島市祇園町西原2093-5
建築測量Ⅰ、Ⅱ
- 事務室 安達賀寿美 佐伯郡五日市町中央3丁目2584
- 技術員 松本 蔵太 建築材料実験

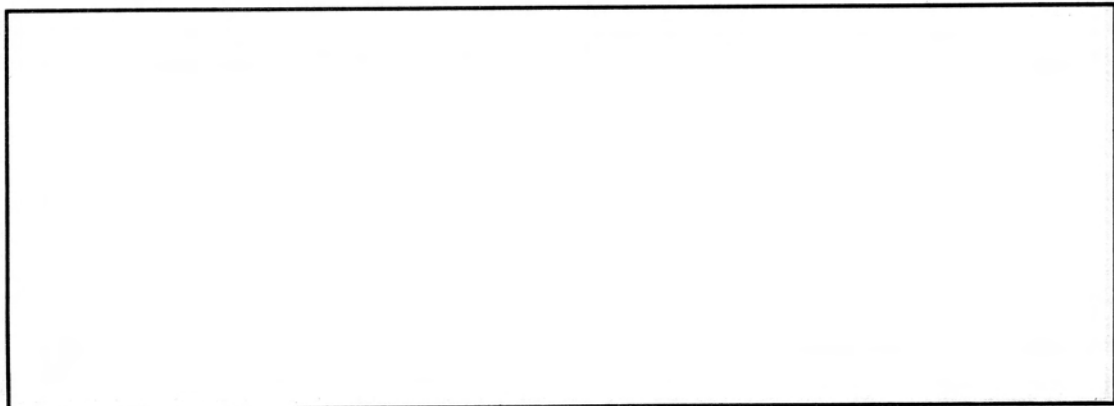
在学生・同窓生の活躍状況

五三会の会員の皆さん元気ですか？今回は社会で活躍中の卒業生の中で、自営されている方々を紹介いたします。皆様方の職場の近くで開業している人もあるかも知れませんが是非、一度、訪ねてみて下さい。

- ① 青木 能典 広島市段原日の出町13-11
日の出マンション
- ② 横山 健次 呉市三条4丁目6-11
TEL 0823-22-7575
- ③ 寺岡 貞義 広島市佐東町緑井1475
- ④ 中塚 晴夫 広島市旭3丁目8-21 日栄荘105
- ⑤ 野宗 一郎 芦品郡新市町大字新市375-1
(野宗商店) TEL 51-3112
- ⑥ 馬場 富蔵 広島市段原日の出町13-12-307
- ⑦ 渡辺 武彦 広島市基町20-1-715
- ⑧ 二宮 恒治 広島市基町19-1-1121
- ⑨ 井上 隆寿 愛媛県西条市樋元口八丁
(井上設備)
- ⑩ 木田朝見 世羅郡世羅西町小国

以上44年卒の部

以後、連載致しますので、新しく自営された方は本部の方までお知らせ下さい。



役員となつて思うこと

広島市役所 住宅建設課 生田 文雄

五三会が結成されて、はや4年になり、会員の数も2000名に届こうとしています。総会も年々活発となり、社会においても、広島近郊のほとんどの職場で同窓の方々が働いて居られる状態となってきました。これも年々卒業生が増すにつれ、ますます充実し、より多くの職場で活躍されることと思いますが、私達同窓の1人として本当に頼もしい限りです。今年度の幹事長として、この会のお世話をさせていただき、改めて、広範な分野で同窓生が働いて居られることを知り、又色々な人達と意見交換を謀る機会を得ることができたことは、私にとって大変有意義であり、良い刺激になったと、心より喜んでいきます。これからの五三会の発展を希望し、この会の充実を期待する為に、僭越なのですが、この1年間、私がこの会に対して感じたことを述べてみたいと思います。第1の問題は、五三会をどのような団体として運営していくか、この会のこれからの方向づけです。現在は、広島工業大学建築学科同窓生同志の親睦を図ることを前面に押し出した形の事業の内容となっている訳ですが、この会のより一層の発展、繁栄を促す為に、又、この会に対して、会員の1人1人に、より興味をもって参加していただく為に、何らかの方向づけを行う必要があるのではないかと思います。本来この会が結成された目的から言明するなら、同窓会ということですので、親睦を第1に考え、母校に貢献する目的をもって事業を行えば良い訳なのですが、そのことだけでは、会員1人1人が積極的に参加するだけの魅力に、何か欠けるような気がします。前年度の事業内容もより多くの会員に参加を呼びかけるべく、各職場、地域で各支部の結成を促進することが提案されましたが、なかなか思うようにはいかず、かけ声だけの結果に終わったようです。今の段階では、五三会の存在を啓蒙し、より多くの会員に興味を持ってこの会を注目していただく状態を作り出すことが先決で、在学中にこの会自体の存在を知らなかった会員が多数いる中で支部の確立を期待するのは、時期尚早な気がします。今年度はその問題を幾分でも解消すべく在學生を中心に、この会の意義とか、同志生同志の絆を強調して、大学祭の参加、OBと在校生との懇談会、新入生のオリエンテーション、セミナーの参加等、卒業後、この会の積極的参加を期待した目的の事業を行ないましたが、その中でも、この会の主旨に対しての質問とか要望とかが多く出たようです。各事業を通じて、感ずることは、この会のこれからのあり方を会員1人1人が考える必要があるのではないかと思います。

第2の問題として感じたことは、少し第1の問題と重複

するようですが、この会を運営している、役員の方が結成されて4年の間、あまりかわらないということです。

このことは、本会の意義を会員によく理解してもらうことができなかった運営の方法にも、問題があったのではないかと反省していますが、いずれにしても、この会が将来に渡って繁栄していくには、一部の会員のみだけではなく、より多くの会員、又、次期を担う新しい会員の参加が絶対必要であり、皆様のなかで同調して下さる方があれば連絡して欲しいと思っています。広島より遠隔地で働いて居られる人の中に、この会を興味深く見守って居られる方々も沢山ある訳ですが、そのような方々には、各地域、職場で支部のようなものを作って、支部間の交流等で、末端からこの会を盛り上げる形ができれば理想的だと思います。又、在校生諸君も、この会に参加して、斬新な意見など提案してもらえると、一層この会が充実してくるのではないのでしょうか。現在のような状態を続けていくなら、数年後には、五三会は衰退消滅していく危険さえあります。会員各位が相互の連絡を密にしてこの会の存続の為に、協力を呼びかけるものです。第3の問題は、運営していく場合に感じるのですが、会費の問題と、連絡不能な会員に対する措置です。会費の問題は、第3回総会のときにも話題になったことで、現在は、入会金の年間会費を徴収していますが、将来会員が増加するにつれ、その事務量も増え未納者も増してきます。このままでは、この会のスムーズな運営も危ぶまれる状態もでてくるのではなからうかと思う訳です。連絡不能な会員の取り扱いも、運営していく上で非常にむづかしい問題で、何らかの対策をこうじる時期にきているのではないのでしょうか。

以上、いろいろくだらないことを沢山述べましたが、私が1年間役員としてこの会に参加し、この会が持つ意義や得られたメリットを感ずるにつれて、是非とも五三会の繁栄、存続を願うものです。

皆様方の御意見をお聞かせ願えれば、幸いです。

最後に皆様方の御健康と御活躍をお祈り致します。

目ざめよ

50年卒 津田 靖文

すでに2年が過ぎ去ろうとしている。不安と寂寥と少しばかりの希望が入り混じった妙な気持で大学の門をあとにしたあの時から、在学中から持っていた、一種の憧れにも似た創造というものに対する夢と、大げさに言えば使命感のようなものが、市役所に入所した初仕事の日に辛くも打ち崩された。何しろこの最初の仕事ときたら、およそ創造とはかけはなれた代物だったのである。(私が配属されたのは営繕課で担当は設計である。)幻滅を感じたというより

あつけにとられた言うのが妥当だろう。

こういう仕事があったのか、そして現に自分がこういう仕事をしているのか、その事実だけで私をあつけられんとさせるに充分だったのである。ここでこうおっしゃる方があるかもしれない。何を甘い寝言を並べたててやがる。自分で勝手に理想を築き上げておいて実際の社会と、その理想とのギャップをそのまま社会のせいにするとは不屈千万、何たるナルシズム、何たる自己憐憫と。ましてや自分で進路を決定しておいて、入った先の職務内容さえ知らなくせに何たる鉄面皮と。が、しかしこれを青二才の甘ったるい感傷として片付けてしまうのは、あまりにも奥深い問題を内包しているように思うのである。たしかにこういう仕事も非常に大事で、いやむしろ仕事とはこういった面白くも何ともないものと相場が決まっているのかもしれないが、もっともっと重要な、そして本来我々（公務員としての）がすべき設計が外註に流れているのも事実である。仕事の絶対量が多いのと、スタッフ不足が、その理由らしいのであるが、合理化を計つてすれば内部でできないはずはないのである。それには、我々自身の自己練達が必要なのは言うまでもない。それに、過酷な労働が待ち受けているかも知れない。しかし、それは苦痛ではないはずである。公務員技術職の仕事というのは技術的なものの外に行政的なものまで広範な領域に亘っている。これからは都市計画にも建築屋が目向けるべき時代である。そういった時にいかに建築をいかにこなして来たかをも言うのではないかという気がする。また、市役所に入って営繕課といういちばん“建築”のニオイのするところにしか居を据えていないのでこんなことが言えるのかも知れないが、とにかく今の役所の体制に何か疑問を感じるこの頃である。

(昭和52年1月記)

五三會に思う

秋 本 孝

早いもので広島工大建築学科卒業生間の情報交換、相互連絡、共助、母校、学生への援助を目的として発足した五三會も4年目を迎えようとしています。又卒業生も8回生を数え、それぞれ建設会社、設計事務所、役所等々と各方面に活躍の場を求められ活動されていることと思います。その中で我五三會も本会の目的にそって会員、役員等の努力により、コンペ、懇談会、会報、住所録の発行等色々な行事活動を行ってきました。が、何せ会員数2,000人を越える大世帯となり中には本会の存在すら知らぬ人や音信不通の人がかなりおられることをきき残念でなりません。同じ建築を志し社会に出た仲間の集まりである本会をより

充実させ、会員間の結び付きをより深めて行くことは、本會又工大建築学科の発展のため強力な力になり得ることは間違いないと思います。そのために少なくとも会員の消息・勤務先を明確にし仕事等の面で互いに利用し合える関係を作り、その中で各仲間の小集団が出来、それが自然発展し支部的な組織が出来上がると云う日常的な活動に対する援助が大切になってきます。これからは本会上部からの伝達、押しつけのようなものでは本会の発展は望めません。先ほど述べたように下からの盛り上りによる会の運営が最も望ましい姿ではないかと思われます。私自身本会の役員に名を連ねていますが、我々役員も暗中模索の中で会合等を重ねてきている訳ですが、何せ力不足、情報不足でみなさんに何かと迷惑をかけていますことを申し訳けなく思っています。又、画一的な活動等物足りなく思っておられる方もたくさんおられると思いますが、そのことに対しての適切なアドバイス、情報をお願いします。最後に私の職場のことを少し述べてみたいと思います。私の就職先は広島県庁で9年目を迎えようとしています。この県庁にも建築学科卒業生が14名を数えるようになりました。職域もそれぞれ分れていますが、同じ工大卒と云うことで色々な情報交換、付き合いをやっていきます。又、以前広島市役所に五三會支部ができた話を聞き我々も云う機運が一時ありましたが、職場が県下全域に渡っている関係でそれとなしに今日に至ってしまいました。今年度中には必ず結成するべく今から準備している状態です。なお、県庁のメンバーと各部署を簡単に紹介しておきますので、会員の皆さんも役所に対して、申請・許可等で関わりもあると思われますので、せいぜい利用し、話しに来庁して下さい。これは昭和52年3月末現在ですので、4月になると若干の移動があると思われますが、私の方まで連絡していただければ行き先がわかりますので、一筆書き添えておきます。

秋本 孝 (44)	広島県都市部営繕課
山口 邦良 (44)	〃
吉川 澄生 (44)	広島県都市部建築課
坪原 隆行 (46)	〃
畑口 秀見 (46)	〃
清戸 基行 (45)	廿日市土木建築事務所建築課
門藤 康則 (48)	〃
佐々木正治 (48)	〃
浜田 幹雄 (45)	広島土木建築事務所建築課
下 建蔵 (47)	〃
荒谷 博 (46)	呉土木建築事務所建築課
大森 彰文 (46)	広島県都市部住宅課
佃 義光 (46)	広島県警察本部会計課
徳清 秀夫 (46)	広島県都市部都市計画課

電車道

だかはし かずこ

シャツ、スカートに蚊とり線香のにおいがしみついている。シャワーをあびるのもやめて、タオル地のバスローブをまどって机につく。哲雄の部屋でかいた汗くさいタオルのにおいがよみがえってきた。

哲雄の部屋では、本や雑誌にはほとんどみあたらない。めばしいものといえば、ベットと籐椅子、明治時代のものだという手鏡、ビニール製洋服ボックス、小型テレビ、レコードとステレオ、綿のはみ出した縞柄銘仙の座布団が2枚。本も雑誌も新聞もころがっていない男の部屋ですごしたことがあったらどうか。どの男も、一種の活字中毒者だったようにおもえる。ふとあのみだらな切れ長の眼がおもいうかんだのは窓のすき間からさしこんでいた陽がかけったときだった。

初秋の通り雨は、わたくしのココア色のミディスカートをたたく。橋の上に人影はない。橋を渡って公園にむかう。ティサロンのクリーム色のソファに腰をおろす。組んだ膝頭、大腿部を雨のしめりがつたって、陰部にある震動がひろがる。それは女の陰部にふれたがる男の指がのこしていく、充たされないあの感触に似ていた。

歩いてきた橋のむこうに、哲雄のオフィスのテレビアンテナがみえた。

「おまえ、いつきたんだ」

と、哲雄はわたしの背中に手をまわした。

「1時半頃かな」

裏からの風がカーテンごしに吹きこんできた。晴れた朝で、階下のガレージで車の音がくりかえししていた。ふとわたしは北陸にいる俊介のアパートの朝をおもいだした。やはり、階下がガレージであった。隣は豆腐屋の経営者で朝が早い。豆腐屋の動かす車の音で、1度は目をさますのが俊介の習性ようになっていた。わたしもいつのまにか俊介の部屋でむかえる朝はこの車の音を聞くようになっていた。そして、また眠って、ほんとうの朝は6時からはじまった。俊介の1日は、6時のテレビニュースをベットの中でみることからはじまる。

哲雄の指が、わたしの髪にふれた。

「ねえ、抱いて」

と、わたしは俊介のアパートの朝をうちけすかのように口早にいった。

哲雄の小さいのがった唇は、わたしの唇のかわりに煙草をくわえている。うつぶせになっている哲雄の背中にわた

をくわえている。うつぶせになっている哲雄の背中にくわしはアゴをのせて薬指の腹で、男の脇の下にふれた。

「しらけてしまうのだ」

と、哲雄はぼつりと言った。

「あつ、みそ汁はあなたにまかせわネ」

きゅうりをうすく輪切りにしながら、わたしは哲雄に言った。

「ああ、いいよ」

と、歯をみがいていた手をとめて哲雄は言った。

冷やっこ、ポテトサラダ、たくあんの線切のゴマあえ。

そして、みそ汁。

「ねえ、サラダ、塩からいのがいい、コショウがらいのがいい？」

みそ汁のだしをとっている哲雄の背にむけて言った。

「どっちだっていいよ」

哲雄は両の薬指で前髪をかきわけながら言った。長くほっそりした白い指。

哲雄のもっているステンレスの包丁が手のヒラの上のやわらかい豆腐の中にゆっくりとくいこんでいく。右の手の甲に青白く血管がうき、白いシャツの袖からこの腕がのぞいている。肉のもりあがったところに海老茶のホクロがひとつみえる。薬指であのとがった手首の骨にふれながら、ホクロのある腕にかみついてみたい衝動にかられた。

空色のサッカーシューズを帆布製の手さげカバンにほうりこみ、哲雄はブルージーンをはいた膝を折ってレザーブーツをはいている。

貨物列車の走るのに平行して線路づたいに歩く。ブルージーンが哲雄の腰にはりついている。

電車の座席に背中をもたせる。哲雄のトニックと煙草の香りがつたわってきた。あつ、ハイライトの香り。

「おまえ、もろに朝がえりってカッコウだな」

哲雄は笑いながら言った。

電車を降りる。傘を持っているのはわたしだけであった。

「さよなら、ありがとう」

哲雄が言いだす前にわたしは言った。

「おおっ」

と啓雄はうなづき、10日前に出遇った電車道を、バスターミナルの方へ背すじをそらすようにして歩いていった。

私は若葉をみた

48年度入学

485035 河内浩志

「工大なんか枯れていてダメヨ！」とこぼす卒業生が多い。これは、ひとり建築学科に限ったことではない。在学する者にとって、屈辱的な言葉は、「卒業生」ということが、さ

らに強めているように思われる。……………

はたして工大には、けだるさを帯びた倦怠感の持ち主である学生ばかりなのだろうか？……それどころか、この沈滞ムードを感じとり、心密かに思いを巡らす者も少なくない。短い4年間であったが、志を新たにする者は、確かに居た。そして、今、工大の建築学科に、私は萌えようとするものを感じて若葉を見たのだ。それは、いくらかの教員であり、卒業生であり、在学生である。生きる世界を見る眼と共に理性世界の理解力を備え、建築家たらんとする彼らの将来への自己投企は秀れて活々している。彼らのドキリとするような取組の姿勢が、思いもよらなかった人間の生き方が、私の心に何かを訴えてきたに違いない。だから腹の底から、からだ全体からフツフツとしたものがわいてくる。正しくそこは萌える季節だ！
さあ！我々も参加しよう！

広工大の同窓生として！

研究発表の記録

除々に景気も上向いている昨今ですが、同窓生の方々が各分野において地域社会に奉仕されていることと存じます。今回より編集部では、大学に対して同窓生の方々が学生時代あるいは卒業後に、作品とか研究論文等を発表されたものを年ごとに簡条書きにして掲載することにいたしました。今回は日本建築学会に発表されたものの一部を掲載します。同窓生の方々に少しでも刺激になれば幸いです。

●研究発表 (日本建築学会・研究論文)

	年・月	名 称
菅原辰幸 405	44・07	都市周辺地域開発の基礎研究 その1・その2 〈中国支部〉
	45・03	都市周辺地域開発の為の 基礎研究・建築動態 〈中国支部〉
	47・03	五日市町における大量輸送交通 機関に関して 〈中国・九州支部〉
	47・10	住宅地域の庁舎位置選定 に関して 〈全国大会〉

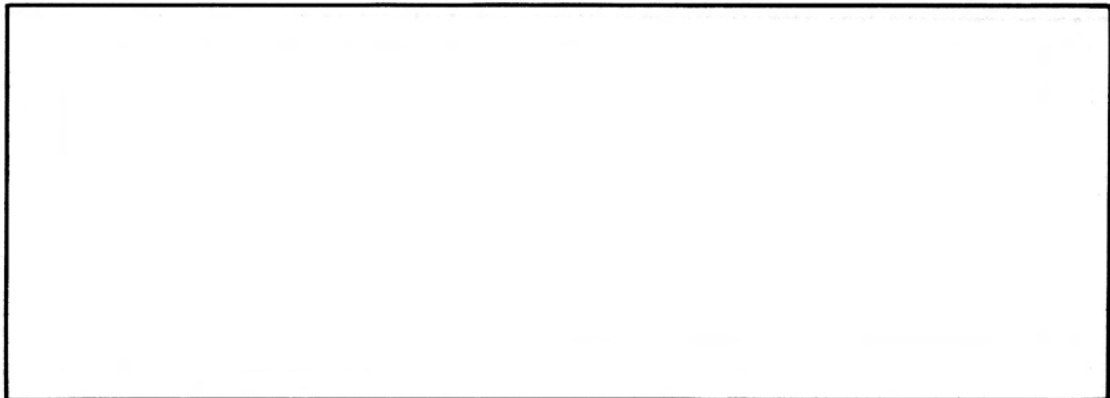
	年・月	名 称
斉木崇人 425	46・03	環境計画における発見的方法に ついて その5～その7 (漁業集落研究13～15) 〈中国支部〉 (共同研究)
	47・03	環境計画における発見的方法に ついて その8・その9 (漁業集落研究18・19) 〈中国支部〉 (共同研究)
	46・11	農村計画における戦術的目標と 戦略的目標について その2・その3 〈全国大会〉 (共同研究)
	46・10	自律圏としてみた漁業集落の 構造について その5・その6 (漁業集落研究16・17) 〈中国支部〉 (共同研究)
	47・10	自律圏としてみた漁事集落の 構造について その7・その8 (漁業集落研究20・21) 〈中支部〉 (共同研究)

◎コンペ応募作品入選

- 入選 的 場 泉 日本建築学会
テーマ “タウンハウス”
一都市の低層集合住宅一

◎第2回コンペ報告

- コンペ入選 広 井 滋 季
三 宅 智 元
石 田 定 信
池 内 康 行
近 藤 力
田 中 荘 一
渡 辺 元 文



■ 第 3 回 総 会 報 告

昭和51年 5 月 29 日に、五三会の第 3 回目の総会が袋町日
生ビル地下、日生グリルにおいて催された。今回は前年以
ない多数の会員の参加で非常に盛況であった。

まず、菅原前年度会長の挨拶に始まり、五三会顧問の曾
根田先生の挨拶、議長選出と進んでいき、50年度の活動報
告、51年度の活動方針へと進んでいった。また、50年度の
会計報告も承認され、50年度の新役員の案で認められ、51
年度は、秋本会長、棕田、渡辺副会長をもって新たにスタ
ートすることとなった。閉会后、母校の先生方の多数の参
加をいただき、なごやかに懇親会が催された。なお総会の
要点は次の通りである。

● ● 51 年 度 活 動 方 針

- 支部の確立結成への努力
- 見 学 会
- O B 祭
- 在校生との懇談会

● 50 年 度 決 算 報 告

(収入)	繰越金	257,775円
	新会員会費	378,000円
	会員会費	111,795円
	広告料	110,000円
	計	857,570円
(支出)	印刷 会 報	86,000円
	住 所 録	50,000円
	総会案内	56,000円
	郵送料・切手	70,000円
	宛名書、バイト料	10,000円
	会 議 費	66,490円
	総会援助費	69,000円
	コンペ援助費	22,000円
	在学生学科展援助費	30,000円
	消耗品費	2,920円
	計	462,410円

51年度へ繰越金 395,160円

● 51 年 度 予 算

(収入)	繰越金	395,160円
	新会員会費	370,000円
	会員会費	150,000円
	広告料	100,000円
	計	1,015,160円

(支出)	印刷 会 報	100,000円
	総会案内	45,000円
	郵送料、切手	100,000円
	バイト料	20,000円
	会議費	90,000円
	総会援助費	100,000円
	コンペ費用	50,000円
	在学生援助費	30,000円
	活動強化費 O B 展	50,000円
	見学会	50,000円
	交流会	50,000円
	消耗品及び雑費	20,000円
	予備費	90,160円
	繰越予定金	220,000円
	計	1,015,160円

第 3 回 五 三 会 コ ン ペ 作 品 募 集

1. 課 題……平和都市広島に建つ文化センター
2. 規 模……自由
3. 敷 地……広島市民球場跡
4. 提出図面……配置図・平面図 (配置図と兼ねても可)
断面図・その他設計意図を表現する図面及び
設計主旨
5. 用 紙……ケント紙 (A-1) 3 枚迄
6. 期 限……昭和52年10月21日、正午メ切
7. 提 出 先……〒738
佐伯郡五日市町三宅・広島工業大学建築
学科事務室、責任者 河内 弘 宛
8. 入選発表……大学祭にて発表、展示いたします。

作品の返却は原則としていたしません。又コンペについ
ての座談会を発表時に行ないますので、出品された方はも
とより、その他の方も多数御出席されますように、御連絡
致します。

会 員 へ の お 知 ら せ

◎ 会費納入のお願い

五三会は建築学科卒業生全ての会でありますので、会
費を納入されていない方は、1日も早く送金下さるよう
にお願いします。なお、五三会で用意しました振替用紙
を使用していただきますと、手数料がかかりませんので
五三会の振替用紙をご利用下さい。

なお、入会金は千円、年間会費は千円です。

郵便局の口座番号は、広島28276

